

賃貸オーナー、9割が効果 内窓設置で入居促進

日本財託管理など4者調査

や騒音が客付けに影響する結果も明らかになり、線路沿いや幹線道路沿いといった騒音リスクのある物件は66%が入居を決めにくいと回答した。

既築賃貸で住宅性能を上げる投資の必要性を感じた経験があるオーナーは24・5%で、およそ4人に1人に当たる。実際に設備投資を検討した51人では、検討理由の首位が「補助金活用・税制優遇」の29・4%で、「客付け・家賃アップ」13・7%が続いた。

投資費用の回収期間は「1〜3年」が36・9%で最多だった。「半年〜1

日本財託管理サービス（東京都新宿区、重吉勉社長）は、賃貸住宅の住宅性能と設備投資に関する意識調査を実施した。東京都、YKKAP（東京都千代田区、魚津彰社長）、スマサテ（東京都品川区、山岸延好社長）との共同調査。7月10〜29日現在、賃貸物件を所有し家賃収入がある624人から回答を得た。

内窓設置で入居者を選ばれやすくなるとの回答は約9割だった。「騒音や結露といった住環境改善が必要な物件に効果がある」が45・4%で最多。「築古といった魅力の足りない物件に効果がある」は33%、「とても選ばれやすくなる」は11・2%だった。断熱性の低さ

年」26%、「半年以内」10%以内を希望する割合は73・7%を合わせ、3年以内6%で、短期間での投資1の回答が7割を超えた。

2026年9月7日 週刊住宅 10面